

# 「CHAIN」

—1 稿—

2026/03/14  
山極 瞭一朗

〈人物表〉

鈴木 克洋

(17)

高校生

澤田 克美

(17)

鈴木の双子の弟

呉 まりも

(17)

鈴木の恋人

五木田 凜子

(28)

鈴木の担任教師

鈴木 亜沙美

(53)

鈴木の母

鈴木 正克

(56)

鈴木の父

1. 高校・グラウンド（朝）

陸上部の鈴木克洋（17）、全速力で走っている。

2. 高校・教室（朝）

後ろの黒板の上に、達筆な文字で「文武両道」の記された横断幕が飾られている。

澤田克美（17）、窓の外を眺めている。

視線の先には、鈴木の様。

澤田、ニヤリと笑う。

3. 高校・グラウンド（昼）

鈴木、白線を超える。

近くにいた呉まりも（17）、ストップウォッチを止める。

鈴木、きつと汗を拭い、

鈴木 「タイムは？」

まりも、にっこりと笑って、ストップウォッチを見せる。

まりも 「自己ベスト更新、すごいじゃん」

鈴木、嬉しそうにガッツポーズ。

まりも 「準備万端じゃない？」

鈴木 「慢心はできない」

まりも 「もっと喜ばなよ」

鈴木 「どれだけ準備しても、しすぎてことはない。陸上もテ  
ストも」

まりも 「学年トップが言う嫌味だからね」

鈴木はまりもと顔を見合わせて笑う。

教室から、澤田が見ている。

すると、まりも、澤田に気付いたようで、教室を指さす。

まりも 「あそこ人いる」

鈴木は視線を向けるが、もう誰もいない。

まりも 「うちの制服じゃない」

鈴木 「何だそれ」

まりも「転校生かな」

鈴木、訝しそうに首を傾げる。額を一筋の汗が伝う。

#### 4. 高校・外観（朝）

チャイムが鳴る。

#### 5. 高校・教室（朝）

生徒たちは軽口をたたきながら、教壇に注目している。

担任の五木田凜子（28）、黒板に「澤田克美」と書く。

澤田はにこにこしながら生徒たちに愛嬌を振りまいている。が、隅の席に座る鈴木を認めると、薄く口角を上げる。

鈴木、澤田に鋭い視線を浴びせている。流れる汗をさっと拭う。

凜子、生徒たちに向き直って、

凜子 「今日からこのクラスに転校してきた澤田克美くんです」

澤田 「澤田です。誕生日は9月23日」

まりも 「克洋と一緒にじゃん」

鈴木、咄嗟に笑みをこぼして、

鈴木 「おう、マジか」

まりも 「反応薄っ」

澤田 「好きな食べ物はアクアパッツァ」

ぐっと顔を硬直させる鈴木。

澤田 「って言っても、片手で数えられるくらいしか食べたことないけど」

笑いが起きる。

澤田 「卒業まで1年もないけど、よろしくお願いします」

生徒たちは拍手する。

凜子 「席はあそこね」

澤田は一礼すると、鈴木の隣の席に来る。

澤田 「澤田です。よろしく」

鈴木、上目遣いに澤田を見つめる。

澤田、ふっと笑みをこぼし、鈴木に顔を近づける。  
鈴木にしか聞こえないくらいの小声で、  
澤田 「久しぶり、兄さん」

と、手を差し出す。

鈴木、逡巡して、その手を握る。

## 6. 高校・グラウンド（昼）

体育の授業中。

澤田、ゴールテープを切る。

生徒たちからどよめきと拍手が起こる。

少しして、鈴木がゴール。

澤田は周囲からちやほやされている。

鈴木、ピクッと頬を歪める。

澤田、鈴木に駆け寄って、

澤田 「鈴木くん、速いね」

鈴木 「嫌味か？」

澤田 「県大会記録保持者だって聞いた。すごいじゃん」

鈴木、ぐっと澤田に顔を近づけて、

鈴木 「今更どうしてここに来た？」

澤田 「いやでも勝てた俺すごくない？」

と、周囲にアピール。

再びちやほやされる。

鈴木 「克美」

澤田、不敵に笑みを浮かべて、

澤田 「そのうちわかる」

鈴木 「あ？」

澤田 「これは宿命さ」

と、鈴木の肩をポンと叩き、立ち去る。

鈴木、拳を握る。

まりもは不安そうに鈴木を見つめている。

## 7. 鈴木家・リビング（夜）

高級家具で揃えられただっ広い豪華な空間。

鈴木正克（56）を中心に、鈴木亜沙美（53）と

鈴木が向かい合わせに座っている。  
食事中。ナイフとフォークのこすれ合う音だけが響いている。

メイン料理はアクアパッツアである。

鈴木、窺うように正克に視線を送り、

鈴木 「あいつが来た」

正克 「食事中だ」

鈴木 「父さんが捨てた克美だよ」

亜沙美 「克洋」

鈴木 「復讐する気だ」

正克 「くだらん」

鈴木 「父さん、どうしてあのととき——」

亜沙美、鈴木を遮り、声を荒げて、

亜沙美 「やめなさい」

鈴木、頬を歪めて、亜沙美を睨む。ため息をつくど、ナイフを置く。そそくさと部屋を出ていく。

正克、ふんと鼻を鳴らし、食事を続ける。

鈴木のアクアパッツアは手つかずだ。

## 8. 高校・外観（昼）

大雨が降っている。

## 9. 高校・教室（昼）

澤田、生徒たちに囲まれている。

澤田の手には満点の答案用紙。

まりも、澤田に駆け寄って、

まりも 「すごいね」

澤田 「まりもちゃん、ありがとう」

まりも 「こちらこそだよ」

と、答案を見せて、

まりも 「澤田くんに教わったとこ、まんま出た」

澤田 「俺ね、昔から山勘当たるんだよ」

まりも 「ほんとありがとう」

澤田とまりもは仲睦まじげに笑い合っている。

鈴木、奥歯を噛みしめる。答案をくしゃりと握りしめる。

澤田、鈴木の際に座り、

澤田 「どうだった、兄さん」

鈴木、澤田を睨む。

澤田、答案を覗き込む。

鈴木は咄嗟に隠そうとして、答案を落とす。

澤田が拾って、

澤田 「ふーん、トップ陥落か」

「94点」の文字。

鈴木 「復讐のつもりか」

澤田、笑みをこぼして、

澤田 「まさか。全部実力だよ。大それたことをするつもりはない」

鈴木、ぎゅっと拳を握る。

澤田 「俺は後悔させてやりたいんだ。親父たちが俺じゃなくて兄さんを選んだこと」

鈴木 「……克美」

澤田 「だから実力で証明する。兄さんは永遠に俺に負ける。これは宿命なんだ」

と、ウインクして、立ち上がる。

澤田 「ちなみに、まりもちゃんも奪うよ」

と、まりもに駆け寄る。

鈴木、答案を握りつぶす。そして、立ち上がり、  
鈴木 「克美」

澤田、振り返って、

澤田 「どうしたの、鈴木くん」

鈴木 「俺がみすみす負けを受け容れると思うか？」  
澤田、にこっと笑って、

澤田 「違うの？」

鈴木 「もう手加減はしない」

澤田 「最初からしてないでしょ」

鈴木 「お前を潰す」

澤田 「望むところだ」

鈴木、澤田と睨み合う。  
どこかで雷鳴が轟く。

(おわり)